

ご寄附のお願い

官民協働海外留学支援制度
トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラムは、
いただいたご寄附をもとに運営されています

ご寄附の方法

継続的に寄附する

いつからでもコツコツ
寄附ができます

一括で寄附する

いつでも1,000円から
寄附ができます

オンライン寄附はこちらから

トビタテ 寄附 検索

右のQRコードからアクセスできます



以下4社のクレジットカードでご寄附いただけます



※銀行振込をご希望の方は下記お問い合わせ先までご連絡下さい

寄附者へのご優待

ご寄附いただいた方は、プライベート・サポーターと認定し、
不定期で以下のご案内を致します。

- ① 帰国した学生が留学成果を発表するイベントのご案内します
- ② ご希望の方に寄附者限定のメールマガジンをお送りします
- ③ トビタテ生からの活動報告レターをお送りします

※累計500万円以上のご寄附を個人名義でされた方は、紺綬褒章の申請対象になります。

税制優遇の対象になります

本プログラムへの寄附金は、特定公益増進法人である(独)日本学生支援機構への寄附として、所得税・住民税・相続税に対し税制上の優遇措置が認められています。

領収書に関して

領収書は、(独)日本学生支援機構に入金後に発行するため、ご寄附のお申し込みから領収書がお手元に届くまで2~3カ月ほどお時間をいただきます。11月から年末までにクレジットカードでご寄附をした場合、翌年付けの領収書発行となります。税制優遇の適用は翌年になりますので、ご了承ください。

お問い合わせ先(個人寄附担当)

✉ tobitate-private@mext.go.jp

☎ 03-5253-4111 (内線4927) 受付時間:平日午前10時~午後5時

TOBITATE CHALLENGERS!

多様なテーマで世界に羽ばたく若者たち

所属・学年は留学時点の情報です。

TOBITATE!
No.01

パリで日本の伝統文化を世界に発信
8代目が挑む輪島塗マーケティング



桐本 晃平さん
(日本大学商学部4年生)

留学先:フランス



インターン先であるギャラリーで撮影した同僚との一コマ

石川県輪島市で江戸時代から輪島塗の製造を行う家の8代目として私は生まれました。大学でマーケティングを学ぶ中で、今後の輪島塗のブランディングのヒントはフランスにあるのではないかと思います。1年間パリのギャラリーでインターンシップを行い、工芸品の企画販売を行いました。現地で生活してみて気づいたことは、一方的な日本文化の発信は押し付けになりかねないということでした。他国で商業活動を行うならば、その土地に根づく文化に寄り添わなければならないと痛感したのです。そして「MADE IN JAPAN」から現地の人と共に創る「MADE WITH JAPAN」へという思考変換の必要性に気づきました。帰国後は、漆の本質的な魅力を伝えるブランドを東京のクリエイターたちと一緒に立ち上げ、百貨店にて発表し、新たな「世界への第一歩」を踏み出しました。

TOBITATE!
No.03

ふるさと沖縄の未来のために
地元学生の留学機運を先輩として盛り上げる



平良 美奈子さん

(沖縄工業高等専門学校5年生)

留学先:シンガポール



お世話になったヒアリング先の企業担当者

沖縄生まれ沖縄育ちで英語が苦手。バスケットと課外活動に明け暮れていましたが、恩師の応援もあり、母校の国際交流活動の促進を目的にシンガポールへ渡りました。建国から50年で経済大国に変貌した国家戦略、地理を生かした観光立国としての存在感に驚き、同時に似たような境遇にある沖縄への危機感を覚えました。教育や金融などあらゆる業界の人々に会い、学生の交流受け入れ先として企業や研究所など15か所の開拓を行いました。帰国後は、「これからの沖縄を担う学生を世界に出すべきだ」という信念のもと、「琉球」と「留学」を掛け合わせた海外留学イベント「RYU×RYUフェスタ」を開催し、1,000人もの参加者を動員し、大成功を収めました。今後は沖縄の高校生、大学生の海外留学の意識向上の活動を行っています。

TOBITATE!
No.02

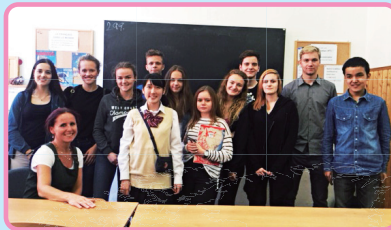
夢を応援しあう仲間との出会い
私を変えた熱意あふれるコミュニティ



渡辺 麻姫さん

(筑波大学附属視覚特別支援学校2年生)

留学先:チェコ



チェコの特別支援学校で現地学生と交流

視覚障害当事者として、海外の障害者の現状と健常者の障害理解について調査するために、日本代表プログラムの支援を受け、3週間チェコ共和国に留学しました。現地では、特別支援学校やインクルーシブ教育に取り組んでいる学校等を訪問し、フィールドワークを実施。誰とでも助け合いの精神を忘れないチェコ人の温かさが障害者の生活を豊かにしていることを目の当たりにし、感銘を受けました。また、トビタテの魅力は、奨学金だけではなく、熱意あふれる日本中の仲間に出会えることにもあります。日常生活の中で夢について話す機会はあまりありませんが、トビタテの仲間となら「未来の日本や世界をより良いものにしていこう」と素直に語り合い、互いの夢を応援し合う関係にもなれます。トビタテは熱い夢を持つ若者たちのコミュニティとして、日本の未来を創造する力になれるはずです。私もその一員として活躍できるようベストを尽くしていきます。

TOBITATE!
No.04

家庭の事情で諦めかけた留学
御恩は日本医療への貢献で返したい



中村 匠汰さん

(東北大学医学部5年生)

留学先:香港



一緒にジム通いしてくれた研究室の仲間たち

病気を治すよりむしろ、病気にならないようにする施策を考える...それが私の目標です。生活習慣病のような慢性疾患の治療は、患者本人・医師の双方に長い治療期間を強いるため、医療費が大きな負担となっています。この問題に対して、IoTを活用した最先端のアプリを検討するために、香港科技大学工学部に留学し、現地で行った実験が評価され、博士課程への推薦をいただくことができました。私は家庭の事情により仕送りを受けられず、給付、貸与合わせて様々な奨学金を借りて東北大学に進学しました。日本代表プログラムからの経済的援助がなければ、留学は到底実現できませんでした。支援いただいた方々への御恩を、医療分野での貢献でお返すために、これからもしっかり学んでいきたいと思っています。

これは、 日本の未来への投資です



私たちは、
若者の挑戦を
応援します

あなたの寄附が、若者の留学資金になる
トビタテ!留学JAPAN
プライベートサポーター募集



文部科学省

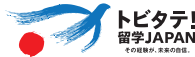


JASSO



トビタテ!
留学JAPAN

トビタテ!留学JAPANとは



トビタテ!留学JAPANは、日本再興戦略に基づき文部科学省や(独)日本学生支援機構・民間企業のオールジャパン体制で2013年に開始した官民協働プロジェクトです。若者の留学機運を高め、留学人数を2020年までに倍増することを目指しています。代表的な取り組みとして、民間寄附による給付型奨学金制度トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラムにより、毎年約1500名の大学生・高校生等を支援しています。



世界で戦えるグローバル人材を育てたい

日本は解決が急務とされる様々な重要課題を抱えています。例えば少子化の進行により、2060年には生産年齢人口(15歳以上65歳未満)は全人口の半分にまで落ち込むと言われています。さらに、国際競争力の著しい低下も無視できません。予測困難な世界情勢の中、グローバル化の波を乗り越えるには、若いうちに海外に出て視野を広げ、世界の人々と互角に渡り合えるグローバル人材の育成が不可欠です。

プロジェクトの意義

トビタテ!留学JAPANの奨学生は、日本代表としてグローバルリーダーを目指すだけでなく、日本の魅力を世界に発信するアンバサダー、留学の意義を伝えるエヴァンジェリストとしての役割を期待されています。そして、多様な国籍・役割の人々と出会い、協働し、成果創出に取り組みます。奨学生は新たな価値観に触れ、葛藤や失敗経験を成長の糧とし、深いレベルでのグローバル感覚を養うことができると考えています。私たちは、このプロジェクトを通じて、多様な若者たちの留学が日本の産業界に貢献し、社会の隅々に大きなインパクトをもたらすことを信じています。



日本代表プログラムに選抜された1期生たちを送り出す社団の様子

なぜ今、オールジャパンで若者の留学を応援するのか?

～数字で見る日本の課題と留学を取り巻く環境～

世界における日本のプレゼンスが低下する中、産業界はグローバル人材の不足こそ、海外展開を阻む最大の課題と考えています。留学を通じてグローバル人材を育成することは日本の未来への重要な投資といえます。経済的な理由で留学を諦める若者をオールジャパンで応援するべき理由が、そこにあります。

26位

日本の競争力の低下

国ごとの競争力を示した「世界競争力ランキング」※での順位は、シンガポールや中国に引き離され、日本は26位となりました。「Japan as No.1」といわれた1970年代後半～80年代の様相からは、大きく後退しています。
※スイス国際経営開発研究所(IMD)「世界競争力年鑑」2017

74%

グローバル人材を望む企業

企業に対する「グローバル人材育成に関するアンケート調査」※では、グローバル経営を進める課題として、「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」を挙げる企業が7割を超えています。
※経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月)

30%

日本人留学人数の減少

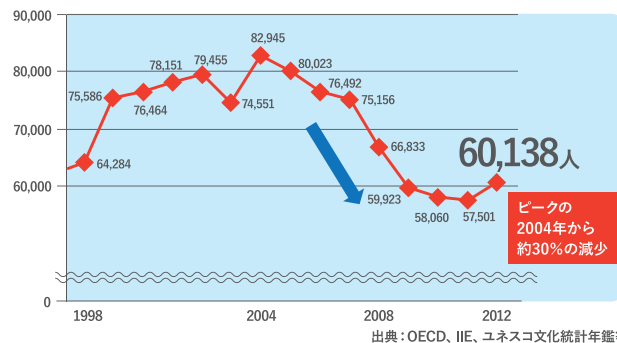
日本人の高等教育機関等への留学人数は2004年から7年連続で減少し、ピーク時から約30%減少※1しました。(図1)また、日本の高校生約320万人のうち、約40%が留学を希望していますが、実際の海外留学生は約3万人※2と、その割合はわずか1%未満です。
※1 OECD、IIE、ユネスコ文化統計年鑑 ※2 文部科学省「平成27年度学校基本調査」及び「平成27年度高等学校等における国際交流等の状況について」

68%

経済的な理由で留学を諦めた

留学を決断するにあたり、阻害要因の調査では、68%が留学を断念した理由として、費用負担の大きさを挙げています。
※ベネッセ教育総合研究所「留学生・海外体験者の国外における能力開発を中心とした労働・経済政策に関する調査研究」(平成20年度経済産業省受託研究)、2009年

図1:日本人留學生数の現状



世界に挑む、世界を攻める。

若さと好奇心で地球を駆けめぐる。

応援しよう!育てよう!

明るい未来を創るのは

若者たちの無限のエネルギーだ。



トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム 5つの特徴

1. 選考基準は成績ではなく、熱意

過去の成績や学歴、語学力ではなく、未知の世界で挑戦したいという熱意や好奇心を重視した選考を行っています。審査員は、支援企業の人事担当者がボランティアで参加。採用活動で培われた鋭い視線で、志望動機や意気込みを最大限評価します。

2. 留学計画を自らデザインできる

現代の「正解のない時代」には、与えられた課題を解くだけでなく、自らの頭で考え実践する姿勢と意欲が求められます。自らの問題意識をもとにテーマを設定し、留学計画を自らデザインすることを応募要件としています。

3. 座学だけじゃない!多様な留学を支援

世界で活躍できる多様な人材を育てるため、ユニークな留学計画も支援。アカデミックな留学のみならず、海外ベンチャー企業やNPOでのインターンシップ、発展途上国でのフィールドワークなど、多様な活動をバックアップしています。

4. 留学効果を最大化する研修の充実

留学を1分1秒無駄にしないために全員参加の合宿を実施し、留学目的の明確化や計画のブラッシュアップを行います。帰国後は留学経験を自分の資産とし、次の行動に繋げるためのワークショップを行います。

5. 返済不要の手厚い奨学金

渡航先や期間によって異なりますが、留学には高額な費用負担が必要となります。このため日本代表プログラムでは、大学生に約150万円(平均滞在期間9か月)、高校生に約50万円(平均滞在期間1か月)の返済不要の奨学金を給付しています。



プロジェクト・ディレクターの想い

～現代の岩倉使節団を目指して～

意欲と能力のある全ての若者を応援したい…トビタテ!留学JAPANに込めた私の想いです。いま私たちは、目の前に迫る「第四次産業革命」や「シンギュラリティ」といった、先行きが不透明で複雑な社会課題とイノベーションが求められる激動の時代を迎えています。若者たちがこの時代を生き抜くには、多様な分野の才能と世界にアンテナを張り、同世代の人脈とつながっている知性・感性、そして海外での修羅場を乗り越えた体験が必要です。日本がグローバル化から取り残される前に、そして日本が世界の未来を担うために、当プロジェクトでは2020年までに情熱・好奇心・独自性・リーダーシップを持った若者10,000人を留学へと送り出し、多様な分野のミニ専門家・将来のリーダー候補集団を構築していきます。現代版の岩倉使節団として、世界を知り、日本人の良さを持ったネットワーク・コミュニティが、将来の日本・世界のかけがえのない財産になると信じています。是非、皆さんとともにオールジャパンでこの仕組みを構築・応援していきましょう。2013年 現職



船橋 力(ふなばし ちから)
文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトディレクター

1994年 伊藤忠商事株式会社に入社
2000年 株式会社ウィル・シードを設立
2009年 世界経済フォーラムのヤング・グローバルリーダーに選出

これまでに築き上げてきた成果

4000名

2014年度に募集を始めて以降、4,000名を超える若者を海外へ送り出してきました(2018年1月現在)。応募数も順調に拡大しており、大学生等の応募倍率は約3倍、高校生は4倍に達しています。

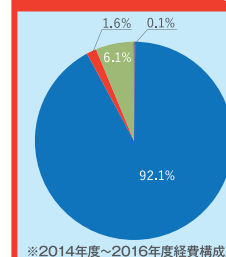
102カ国

奨学生の渡航先は欧米だけに留まりません。アジア・オセアニア諸国に留学した学生の割合は、全体の40%を超えています。またアフリカや中南米、中東エリア各国に留学した学生も多数おり累計102カ国に及びます。

62%

日本代表プログラムが始まってわずか3年で、大学生のうち留学経験者や留学を検討している学生※の認知度は62%に達しています。
※株式会社マクロミル「学生の海外留学に関する調査」,2017年1月

日本を担うグローバル人材を育てるために あなたの力が不可欠



当プロジェクトでは、運営経費を極力抑える努力を重ねており、いただいた寄附金のうち、9割以上を学生の奨学金に充てています。より多くの留学生を送り出す目標に向かって、広く皆様からの共感をもとに今後も活動を継続していきたいと考えています。羽ばたく学生たちの応援団の一員に、あなたもなりませんか。

※2014年度～2016年度経費構成比